

連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクトの名称	社会科授業研究における教育実践学的方法論の構築と展開 －PDCAに基づく授業理論の有効性の検証と社会科授業研究スタンダード開発－		
研究期間	平成24年4月1日～平成27年3月31日	プロジェクト記号	N
チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）			
◎梅津正美・教授・鳴門教育大学	森 才三・教諭・広島大学附属福山中・高等学校		
原田智仁・教授・兵庫教育大学	佐藤章浩・教諭・鳴門教育大学附属小学校		
關 浩和・教授・兵庫教育大学	加藤寿朗・教授・島根大学		
米田 豊・教授・兵庫教育大学	峯 明秀・教授・大阪教育大学		
吉水裕也・教授・兵庫教育大学	中本和彦・准教授・四天王寺大学		
茨木智志・教授・上越教育大学	Todd Kenreich・准教授・米国タウソン大学		
桑原敏典・教授・岡山大学	権 五鉉・教授・韓国慶尚大学校		
山内敏男・D3・兵庫教育大学（H27.3修了）	Nasution・講師・インドネシアスラバヤ大学		
紙田路子・D3・岡山大学	井上奈穂・准教授・鳴門教育大学		
祐岡武志・D3・兵庫教育大学	伊藤直之・准教授・鳴門教育大学		
大西慎也・D2・兵庫教育大学	小谷恵津子・講師・畿央大学		
菊池八穂子（院生として平成24年度参加，平成25年度から連合研究科休学）			
プロジェクト全体の研究経過及び研究成果			
<p>1. 研究会の開催</p> <p>①平成24年6月10日（日）大阪大学中之島センター406室 研究発表：梅津正美「社会科授業研究の教育実践学的方法論の構築をめざして－問題の所在－」，井上奈穂「授業改善におけるPDCAの検討課題」</p> <p>②平成24年8月12日（日）大阪大学中之島センター406室 研究発表：米田豊「鳴社会学授業カンファレンスの検討に基づく社会科授業研究方法論の課題と提案」，峯明秀「堀川小学校授業研究の検討に基づく社会科授業研究方法論の課題と提案」</p> <p>③平成24年11月24日（日）大阪大学中之島センター406室 研究発表：菊池八穂子「小学校社会科政治学習の改善」，桑原敏典「社会科教育研究における授業開発の方法と課題」，梅津正美「社会科授業研究の教育実践学的方法論の枠組みと作業課題」</p> <p>④平成25年6月1日（土）大阪大学中之島センター507室 基調提案：梅津正美「社会科授業研究の教育実践学的方法論の探求」 本研究会において，授業研究方法論に関する研究仮説を検討し，4つの仮説を立て，仮説実証のための授業研究を展開していくこととした。</p> <p>a. 授業の開発プロセス解明研究， b. 授業の評価プロセス解明研究， c. 授業の改善プロセス解明研究， d. 社会認識発達の解明と授業開発研究</p> <p>⑤平成25年7月20日（土）兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス4号室 小谷恵津子実践（中学校），紙田路子実践（小学校）に基づく授業研究方法論の検討</p> <p>⑥平成25年12月8日（日）大阪大学中之島センター406室 研究発表：森才三・原田智仁・桑原敏典「批判的思考力育成型の開発と分析」，佐藤章浩・伊藤直之・井上奈穂「教員養成における授業評価研究」，紙田路子・峯明秀「小学校児童の開かれた価値観形成をめざす授業実践と分析」，小谷恵津子・大西慎也・米田豊「社会科授業改善のためのPDCAプロセスの解明」，加藤寿朗・梅津正美「中学生の社会認識発達に関する調査的研究」</p> <p>⑦平成26年6月1日（土）大阪大学中之島センター406室 平成25年度研究成果の総括と出版書『教育実践学としての社会科授業研究の探求』のプロット及び執筆内容の検討</p> <p>⑧平成27年3月1日（日）大阪大学中之島センター607室 シンポジウム「教育実践学としての社会科授業研究の探求－授業研究のパラダイムシフト－」の趣旨・展開・発表内容についての検討</p> <p>⑨平成27年3月23日（月）大阪大学中之島センター402室 シンポジウムの反省と3カ年の授業研究プロジェクトの総括</p>			

2. 調査活動の展開

①国内調査：平成24年12月23日（日）東京八重洲ホール102会議室

研究員の梅津正美と峯明秀により、小学校における社会科授業研究の現状と課題及び本プロジェクトの作業課題の妥当性について、佐藤克士氏（東京都神津小学校教諭）、永田忠道氏（広島大学大学院教育学研究科准教授）にインタビューを行い、評価と助言を受けた。

②海外調査：○プロジェクト参加院生の紙田路子氏が、平成24年11月4日（日）～9日（金）アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルにて調査を行った。Center for ADR in Hawaii Judiciaryにて社会科授業開発研究のための資料収集を行うとともに、Leilehua High Schoolにて同校教諭Carla Lum氏に社会科授業研究についてインタビュー調査を行った。

○研究員の梅津正美と加藤寿朗により、平成25年2月20日（水）～2月24日（日）に韓国・慶尚大学校師範大学（晋州市）及びソウル市教育史料館にて調査を行った。

○研究員の原田智仁が、平成25年12月24・25両日インドネシアのスラバヤ大学を訪問し、ナスティオン氏から当地の授業研究の現状について聞き取りをするとともに、日本の社会科授業研究について講義をした。

3. 研究成果の公表

①研究著書

・梅津正美・原田智仁編『教育実践学としての社会科授業研究の探求』風間書房、平成27年3月、全388p.

②研究論文（A相当論文）

・加藤寿朗・梅津正美他「生徒の社会認識発達の変容に関する調査的研究—中学校歴史学習の場合—」歴史教育学会（韓国）編『歴史教育論集』第52集（韓国語、権五鉉訳）（韓国研究財団登録雑誌、査読有）、平成26年2月、pp.163-194

・佐藤克士・吉水裕也「科学の論理と子供の論理との統合をめざす社会科授業研究のケーススタディー—小学校第5学年「日本の水産業」を事例として—」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科編『教育実践学論集』第15号、平成26年3月、pp.153-167

・山内敏男「相互連関の導出による認識の深化を図る中学校社会科歴史授業の開発—小単元「分立する権力と武士の登場」を事例に—」社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究』第26号、平成26年12月、pp.11-20

・森 才三「社会科授業における「なぜ」発問の実践方略—「問いの対象」と「問いの観点」に注目して—」全国社会科教育学会編『社会科研究』第82号、平成27年3月、pp.13-24

・井上奈穂「社会科授業における授業者の評価方略の構成—授業実践「震災からの復興を考える」の場合—」全国社会科教育学会編『社会科教育論叢』第49集、平成27年3月、pp.93-102

・加藤寿朗・梅津正美「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する縦断的調査研究—歴史的分野の調査を中心として—」日本教科教育学会編『日本教科教育学会誌』第38巻3号掲載予定（印刷中）

③研究発表

・第3回全国社会科教育学会・韓国社会教科教育学会研究交流会（平成25年8月24日土曜・キャンパス・イノベーションセンター東京）に参画し、「日韓社会科授業研究の最前線」をテーマに、本プロジェクトから下記の3氏が発表した。

加藤寿朗「児童・生徒の社会認識発達に基づく社会科授業の開発研究」、吉水裕也「日本の社会科授業研究の特徴と課題」、井上奈穂「社会科授業における授業者の評価方略の構成」

・平成26年2月9日（日）に、社会系教科教育学会第25回研究大会（大阪教育大学）において、本プロジェクトからラウンドテーブル「社会科授業研究の教育実践学的方法論の探求」を立てた。

④シンポジウム・公開セミナー

・公開セミナーの開催

平成26年3月23日（日）大阪大学中之島センター406室にて、「社会科授業研究公開セミナー」を開催した。

・シンポジウムの開催

平成27年3月22日（日）13：00から大阪大学中之島センター406室にて、シンポジウム「教育実践学としての社会科授業研究の探求—授業研究のパラダイムシフト—」を開催した（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科と全国社会科教育学会の共催）、参加者48名。

プログラムは、下記の通り。

開会挨拶・趣旨説明 梅津正美（鳴門教育大学）

シンポジウム

コーディネーター 伊藤直之（鳴門教育大学）・中本和彦（四天王寺大学）

1. 成果発表

（1）「授業開発」研究についての新しい提案

①森才三（広島大学附属福山中・高等学校）・桑原敏典（岡山大学）

②祐岡武志（奈良県立法隆寺国際高等学校）・原田智仁（兵庫教育大学）

（2）「授業評価」研究についての新しい提案

紙田路子（島根県浜田市立松原小学校）・峯明秀（大阪教育大学）

（3）「授業改善」研究についての新しい提案

大西慎也（兵庫県淡路市立北淡小学校）・米田豊（兵庫教育大学）

2. ディスカッション

指定討論者 吉水裕也（兵庫教育大学）

3. 本研究のまとめ～社会科授業研究の課題と展望～

コメンテーター 梅津正美（鳴門教育大学）・権五鉉（韓国慶尚大学校）

閉会挨拶 原田智仁（兵庫教育大学）

⑤ウェブによる研究成果の公表

・研究概要等を、兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科HP及び全国社会科教育学会HPにリンクして公表した。